



能登半島全域で道路の寸断や家屋の倒壊、断水など甚大の被害が発生(2024年1月2日撮影) © 空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"

2024年元日 能登半島地震

災害関連死を防ぐために

2024年元日。石川県能登地方を震源とするマグニチュード7.6の地震が発生しました。

石川県によれば、1月25日までに県内で236人の死亡が確認され、行方不明の方の捜索も続けられています。住宅被害は4万1,834棟にのぼり(25日時点)、未だ断水が続く地域もあり、寒さのなか、「災害関連死」を防ぐ取り組みが喫緊の課題となっています。

Civic Forceは緊急支援プロジェクト「空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"」の一員として、元日から緊急支援活動を開始。能登半島最北端の石川県珠洲市を中心に、行方不明者の捜索・救助、避難所や孤立集落での医療支援活動のサポート、企業と連携した物資配布などを実施しています。また、被災した地域の復旧・復興を中長期的な視点で後押しする独自プログラム「NPOパートナー協働事業」も開始しました。

発災から1カ月の活動報告をお送りいたします。



ご支援のお礼とお願い

多くの皆様にご支援いただき、2024年1月26日までに8,830万円以上のご寄付を頂戴しております。たくさんの応援メッセージもありがとうございます。甚大な被害を前に支援活動は長引くことが予想されます。引き続きご関心をお寄せください。

緊急支援募金
受付中
能登半島地震
2024



2024年元日 能登半島地震 発災から1カ月、災害関連死を防ぐために

甚大な被害を受けた石川県では450カ所以上の避難所に約14,600人が避難しています(25日時点、石川県)。
Civic Forceは空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"の一員として、能登半島最北端の珠州市などで緊急支援活動を行っています。




陸
1月1日夕刻、ARROWSは陸路で被災地へ向かい、発災後2日目から災害関連死を防ぐための支援を開始。珠州市総合病院と連携し、電気も水もない避難所の一室で診療を開始し、被災者の診察や薬の処方などを続けています。



空
ARROWSのヘリコプターを活用して、地震や津波の影響で道が寸断され車両が入れない沿岸部の孤立集落へ。大谷地区などで臨時診療所の開設や患者搬送、物資輸送などの支援を行いました。



海
大型トラックによる陸路でのアクセスが難しい状況のなか、1月5日、被災地である珠州市飯田港にARROWSの船舶が到着。水や食料、灯油やカイロなど大規模な物資支援を行いました。

連携の力
被災地の活動は、平時から続けてきた訓練や企業間ネットワークの力が生かされています。

空飛ぶ捜索医療団 ARROWS
空飛ぶ捜索医療団"ARROWS"は、大規模災害の被災地で救助・救命活動を行う、医療を軸とした緊急支援プロジェクトです。ヘリコプターや船などの輸送手段を活かし、医師や看護師、レスキュー隊員、災害救助犬などの救助チームが被災地に赴きます。Civic ForceはARROWSの一員として行方不明者の捜索・救助から物資配布、避難所支援、中・長期的な復興のサポートまで必要な支援を最適な形で届けています。

SEMA
緊急災害対応アライアンス「SEMA(シーマ)」は、民間企業と市民団体が連携して災害支援を行うため、2017年に設立され、企業81社、市民団体6団体が加盟しています(2023年12月現在)。Civic Forceは被災地でいち早くニーズを調査し、SEMA加盟企業から寄せられる物資やサービスを迅速に届けています。

JPBPA
日本プロ野球選手会とCivic Forceが2021年に創設した「日本プロ野球選手会災害支援基金(通称:選手会ファンド)」は、石川県高校野球連盟と連携して、被災した加盟校の野球部員たちに物資を届けるなどの支援活動を続けています。

1月1日

1week

2week

3week

1カ月

地震発生

行方不明者を捜索・救助

2日、倒れた家屋の柱や家具の隙間に挟まれ、動けなくなっていた71歳の女性を発見。救出し、病院へ搬送しました。また、ARROWSでは警察や自衛隊、消防と協力して捜索に携わり、発災後6日目には奇跡的に発見された生存者の救助医療処置を担いました。



きれいな水を届ける

珠州市内の避難所2カ所で給水所を設置。避難所だけでなく車中泊や在宅避難を続ける地域の皆さんにも広く活用されています。



ニーズに合わせた物資支援

4日、奥能登への玄関口である七尾市に物資の拠点倉庫を設置。10日からは珠州市にも倉庫を確保し、大型トラックでの輸送が困難な状況の中、企業と連携した小型車のピストン輸送を開始しました。これまでに珠州市内10カ所以上の避難所に以下の物資を届けました(1月20日時点)。避難所だけでなく、見えにくい在宅避難者や車中泊の方へ物資を届けているほか、要請を受けて輪島市や七尾市へも衣類や食料などを届けています。

非常用トイレ7,500回分/ウレタンマット100枚/ブルーシート99枚/肌着上下6,000セット/靴下2,000足/除菌スプレー238個/カイロ1,200個/女性用ナプキン14パック/灯油&ポンプ&携行缶/ビニールバッグ500枚/ポータブルバッテリー/アスファルト補修剤/スリッパ500足/シャンプー・リンス150個/マスク1,000枚/衛生キット500人分/ウェットティッシュ・ティッシュ/みそ汁1,080食/水3,000本/ユーグレナ・ジュース等飲料/米1,000kg/カップ麺等2,000食/フルーツ(いちご・みかん)/ペット用品など



VOICE
被災地で出会った
皆さんからのメッセージ

本当に必要な支援を届けるために、被災した方の声を聞き、見えにくいニーズや困りごとを引き出すコミュニケーションを大切にしています。そんな私たちの原動力は支援を届けた人の笑顔やあたたかいメッセージ。支援先で聞いた”声”の一部を紹介します。



「トイレがひどい状態だったから
すごく助かる！」

— 非常用トイレを受け取った避難所職員



非常用トイレを珠洲市の避難所へ



浄水・給水支援

「水のありがたさを
実感しています」

— 給水所に水をくみにきた男性



避難所物資集積所

「あたたかくて柔らかい。
段ボールの上で寝ていたから」

— ウレタンマットを受け取った女性



SEMAと連携して
ウレタンマットを支援

「洗濯ができなかったから、
着替えられて嬉しい」

— 避難所で下着を受け取った男性



下着支援



健康増進センター

「避難所に行けなくて
ビニールハウスに身を寄せています」

— 米を受け取った世帯



ビニールハウスの避難所へ



灯油支援

「寒くて寒くて。
灯油はととてもありがたい」

— 灯油を届けた物資集積所の職員

報道が減っても
関心を持ち続けてください

Civic Force代表理事 **根木佳織**



今回の地震で能登半島のほぼ全域が被害を受け、特に奥能登では「被災者＝全住民」という状況が、これまでの災害と大きく異なる点です。地震の影響で、被災地と被災地の外を結ぶ道路が寸断され、支援を難しくしています。生活再建など次のステージに移る前の緊急フェーズが長引くなか、私たちが今できることは災害関連死を防ぎ、一人一人が少しでも安心して避難生活をおくれるようサポートすること。未だ断水が続くなか、日常を取り戻すには、まだまだ時間がかかります。今後、報道が少なくなっても被災地への関心を持ち続けてください。

被災地から
連日、配信中



SNSでも最新情報をお届けします

シビックフォース

